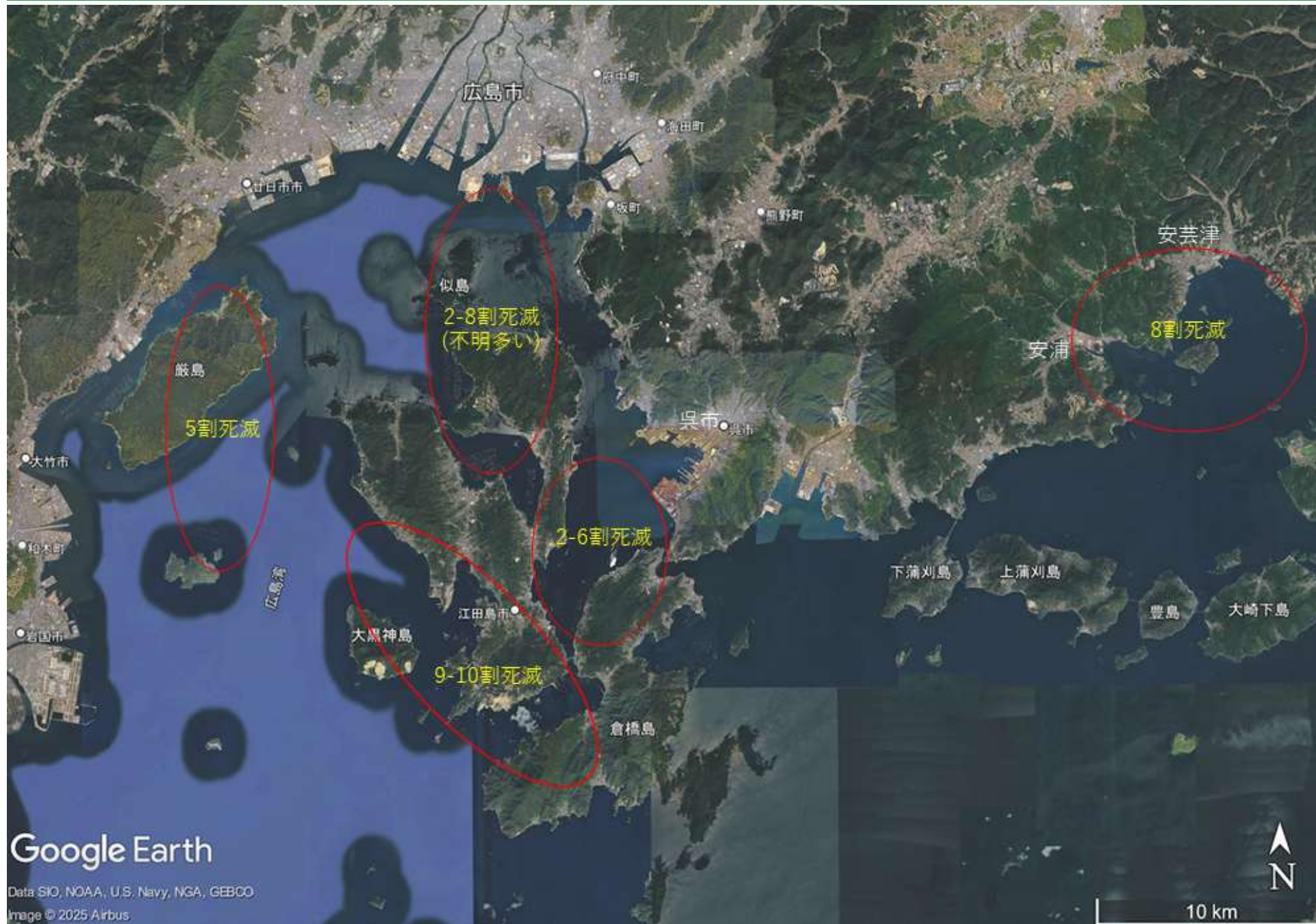


呉の牡蠣の死滅問題に関する リモートセンシング解析 —第1報 水温とChl-a分布特性—

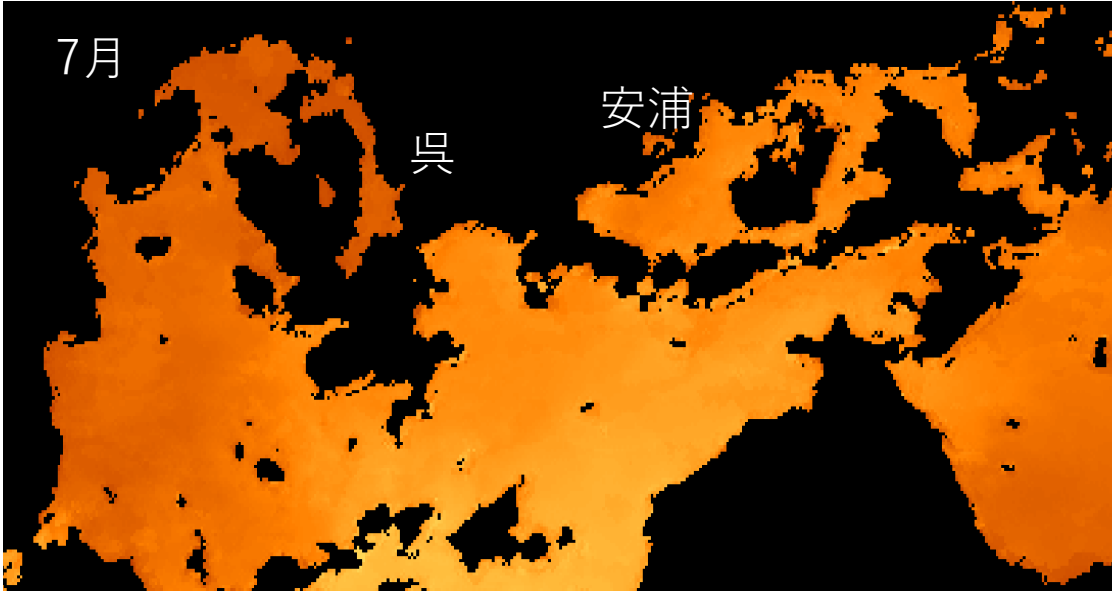
2025/11/13

作野 裕司
(広島大学大学院先進理工系科学研究科)
sakuno@hiroshima-u.ac.jp



<概要>

- ・広島湾より呉沖の方が牡蠣の死滅率が高い.
- ・広島湾南部でも死滅率が高い.
- ・地域によって，被害状況が異なるようだ.
- ・呉沖では一部赤潮も発生している.
- ・死滅の原因は10月末時点では不明.

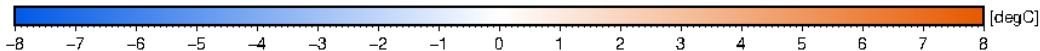


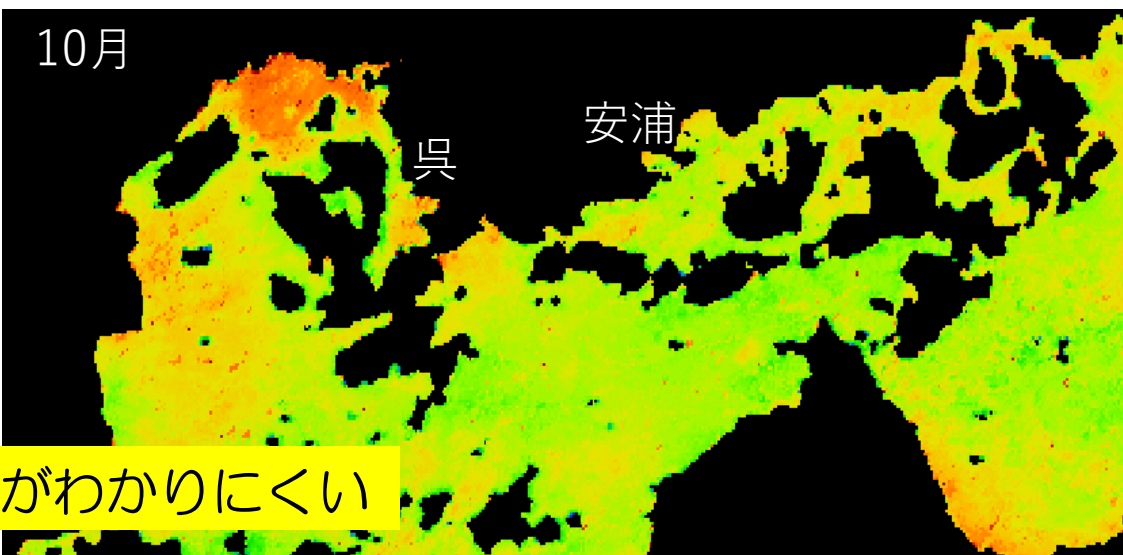
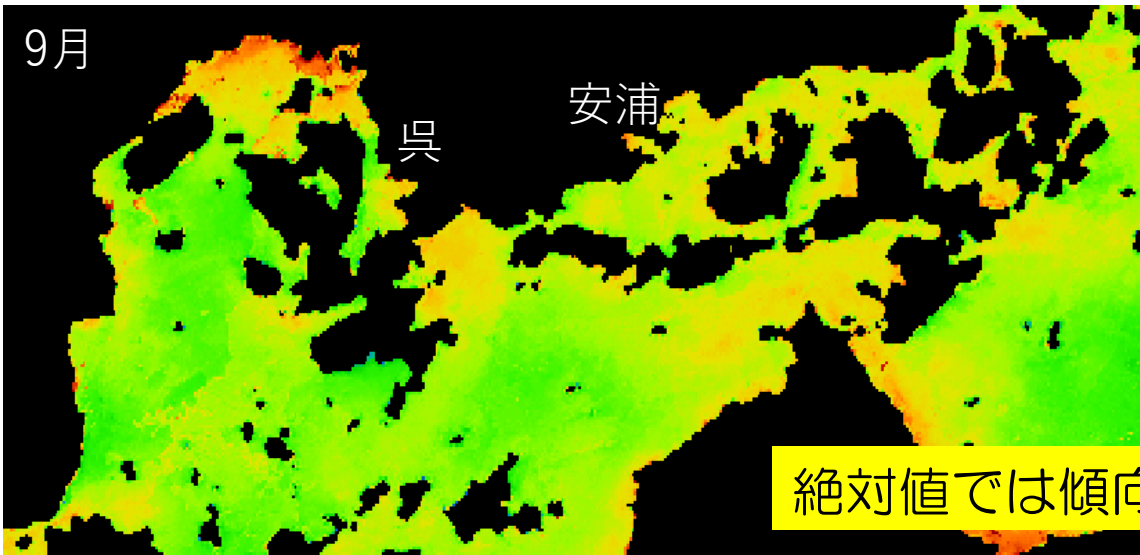
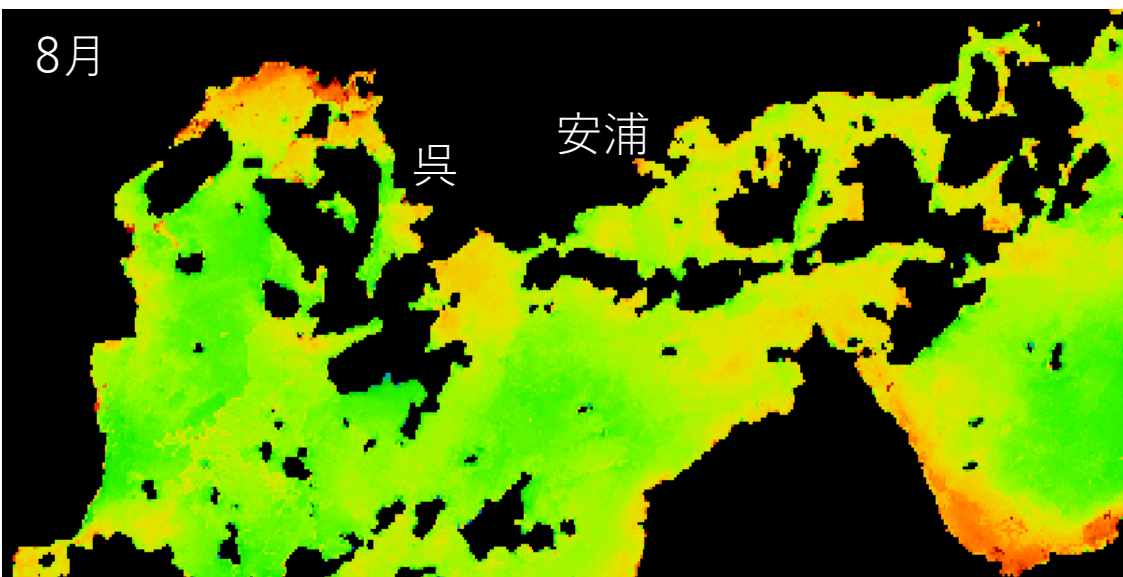
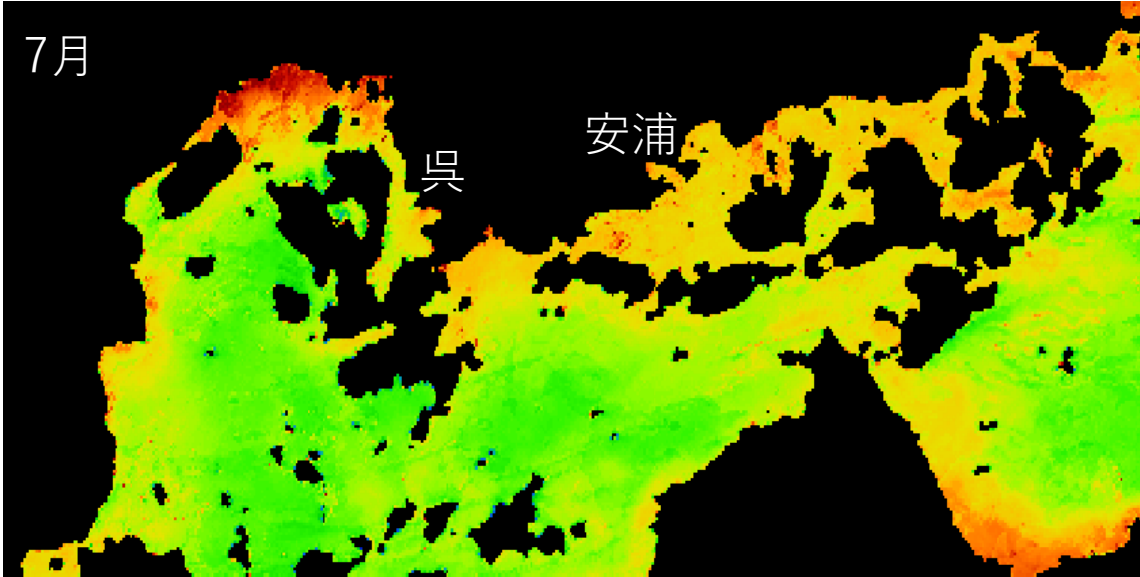
絶対値では傾向がわかりにくい



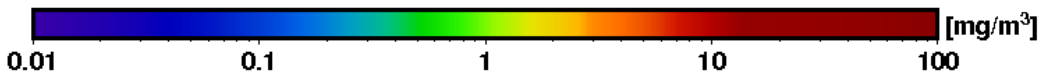


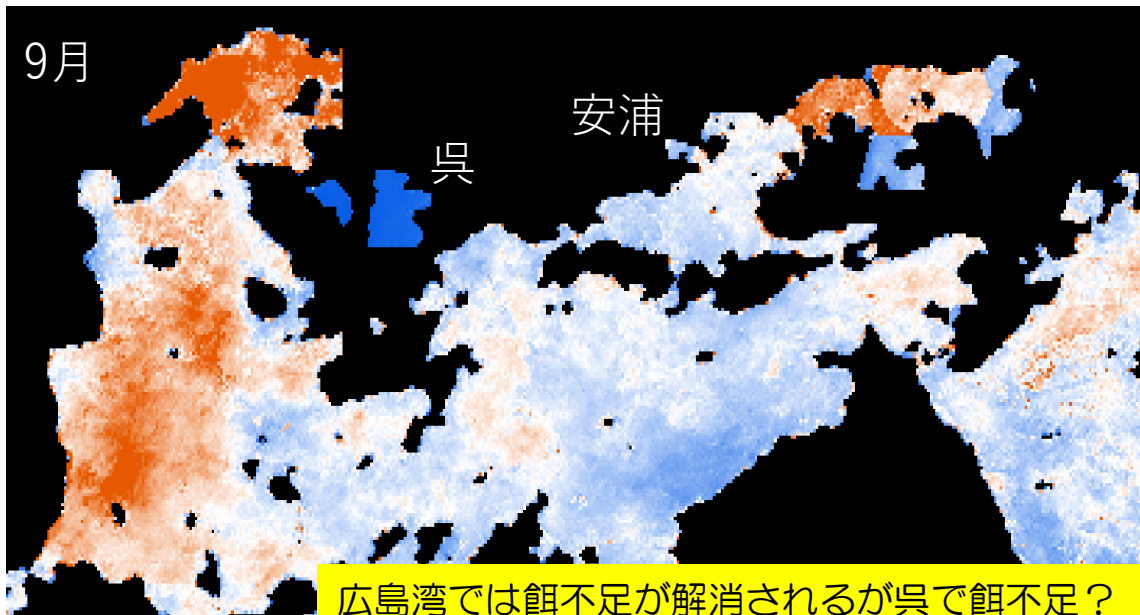
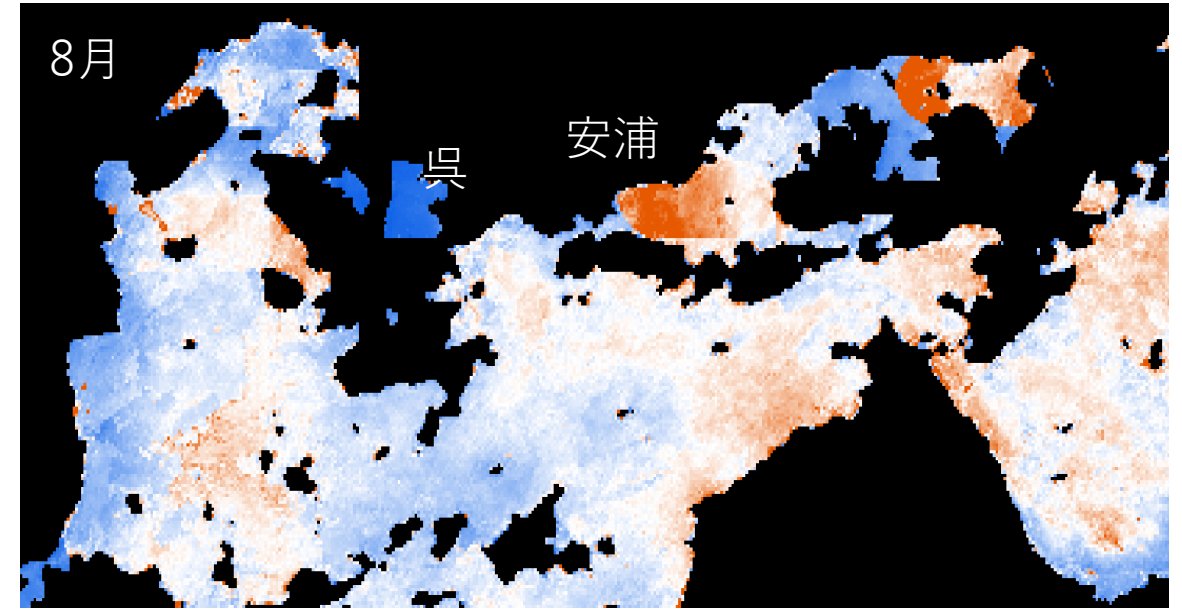
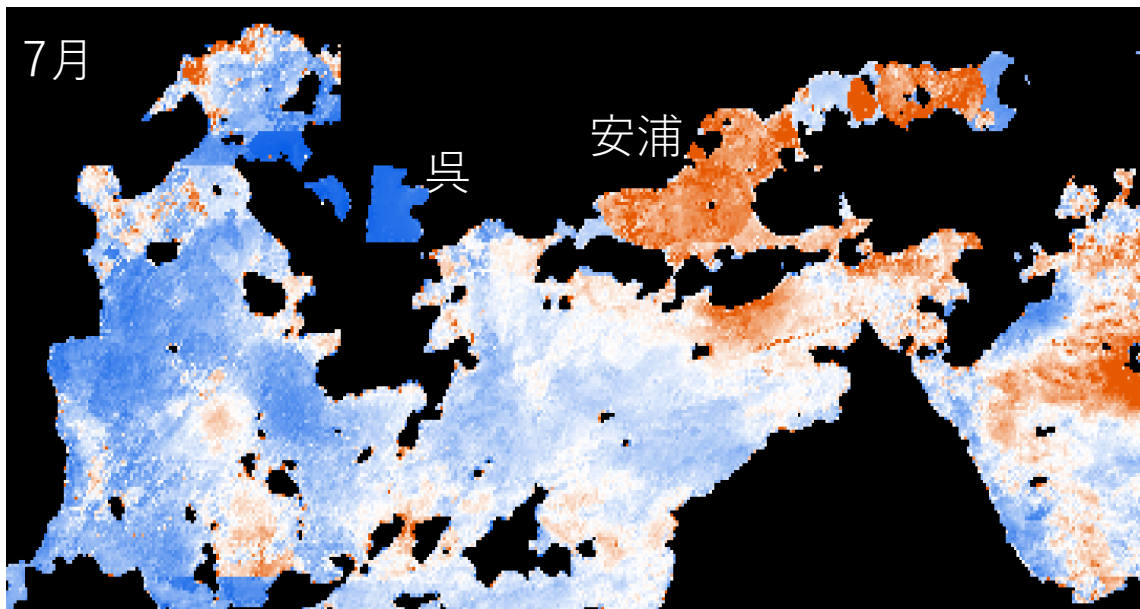
全体的に水温は平年よりやや高い程度？



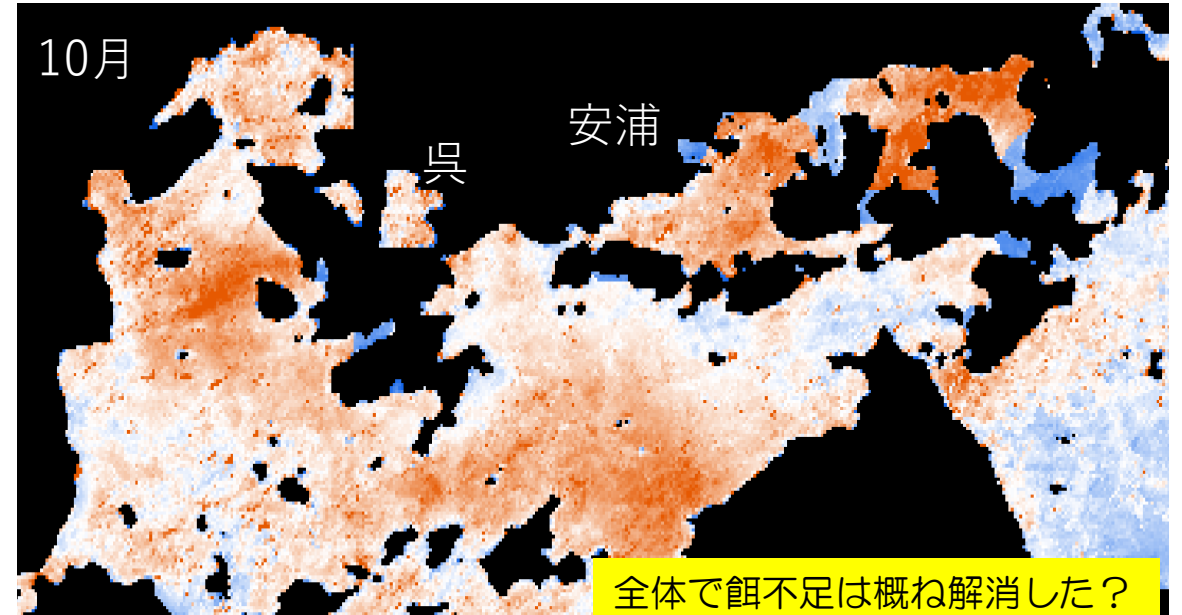


絶対値では傾向がわかりにくい

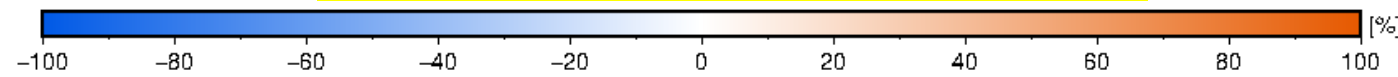


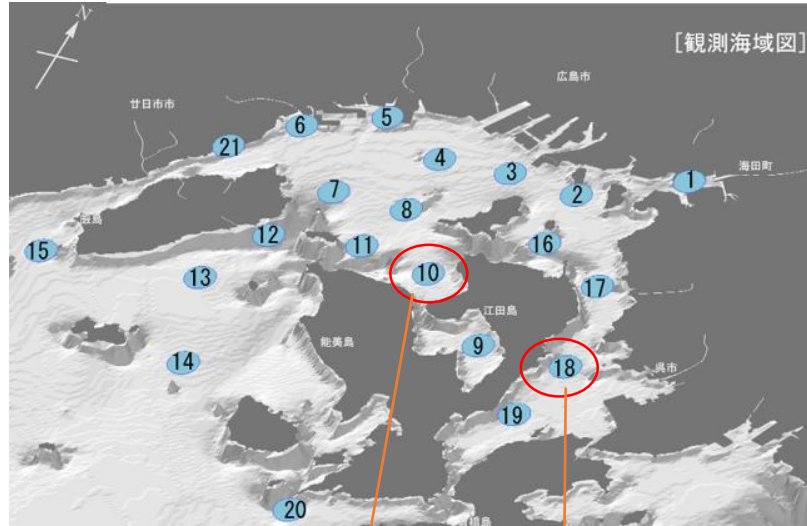


広島湾では餌不足が解消されるが呉で餌不足？



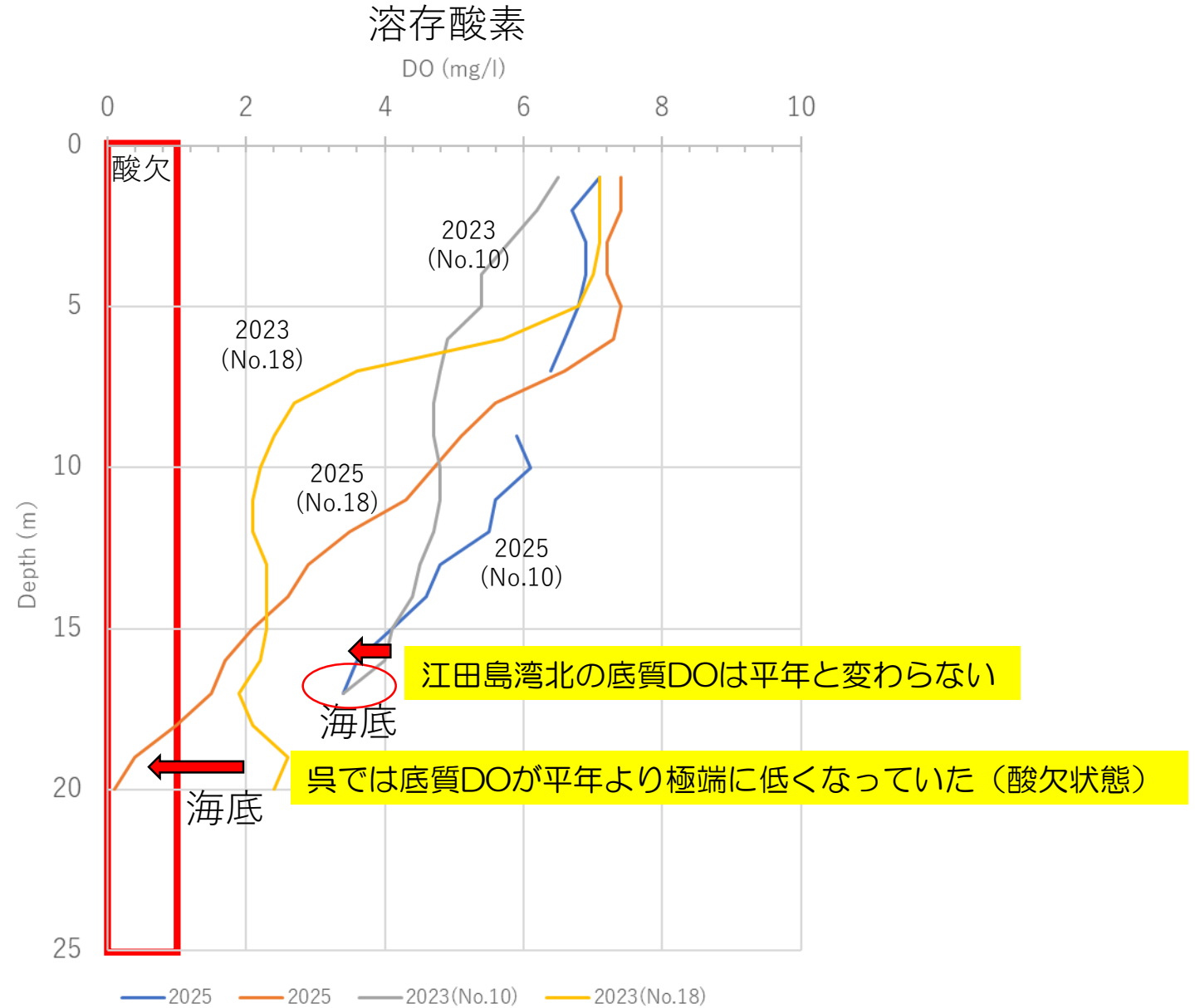
全体で餌不足は概ね解消した？





調査日
2023/9/12-13
2025/9/2-3
※2024年9月調査なし

9月に呉沖の海底が無酸素状態！



- 牡蠣の死滅率は養殖業者の聞き取りによると10月末時点で広島湾（5割程度）と比較して呉沖（8－9割）程度であり，地域差がある．
- 広島湾～呉沖の衛星水温は，7月～10月では例年と比較して全体に2－3℃高い傾向がある．
- 7月～10月植物プランクトン量（牡蠣の餌）の指標であるChl-aは7月～8月は例年より少ない．9月に入り広島湾西部は回復（増加）．10月は全域で回復（増加）
- 実測による調査で，9月初旬に呉沖の海底が酸欠（DO低下）になっていたことがわかる．